

に含めている。

3.  推計値には含まれていない。                      4.  制度上、存在しない。

Q7. 貴国において、病院ではどの種類の外来患者が診療されていますか。

1.  GP 等から紹介された患者                      2.  一般の外来患者(1を除く)  
3.  救急患者    4.  その他:具体的に\_\_\_\_\_

Q8. Total expenditure on over-the-counter medicines の推計値には、以下の勘定項目は含まれていますか。含まれない場合、あるいは、OTC medicines と他の subcategories とに分けて推計していない場合には、当該勘定項目が上位のカテゴリーである pharmaceutical & Other Medical Non-durables に含まれるのかを記入してください。

Q8\_1. 処方せん不要医薬品

1.  OTC の推計値に含まれる。                      2.  pharmaceutical & Other Medical Non-durables"に含めている。  
3.  推計値には含まれていない。                      4.  制度上、存在しない。

Q8\_2. 処方せん不要医薬品のうち、薬局以外で販売される自由販売医薬品

1.  OTC の推計値に含まれる。                      2.  pharmaceutical & Other Medical Non-durables"に含めている。  
3.  推計値には含まれていない。                      4.  制度上、存在しない。

Q8\_3. 処方せん不要医薬品で prescribed medicine と同じ成分のもの(英国における statine 系など)

1.  OTC の推計値に含まれる。                      2.  pharmaceutical & Other Medical Non-durables"に含めている。  
3.  推計値には含まれていない。                      4.  制度上、存在しない。

Q8\_4. 制度上、医薬品には分類されないが、医薬品と同じ成分のもの(herbal medicine や vitamin など)

1.  OTC の推計値に含まれる。                      2.  pharmaceutical & Other Medical Non-durables"に含めている。  
3.  推計値には含まれていない。                      4.  制度上、存在しない。

Q8\_5. 上記以外で OTC medicines に含まれるものがあれば具体的にお書きください。

\_\_\_\_\_

Q9. 貴国における医薬品支出の推計のために主として使っているデータソースはなんですか。Prescribed medicines, OTC それぞれについてご記入ください。

Prescribed medicines	1. <input type="checkbox"/> 企業の出荷統計	2. <input type="checkbox"/> 国・公的機関が実施している調査データ(1を除く)
	3. <input type="checkbox"/> IMS data	4. <input type="checkbox"/> その他 :具体的に_____
OTC	1. <input type="checkbox"/> 企業の出荷統計	2. <input type="checkbox"/> 国・公的機関が実施している調査データ(1を除く)
	3. <input type="checkbox"/> IMS data	4. <input type="checkbox"/> その他 :具体的に_____

複数のデータソースを用いている場合は、該当する番号すべてにチェックしてください。

貴国における外来処方薬の価格(患者に渡されるとき)はどのように決められていますか。地域や保険の種類によって異なる場合は、該当する番号すべてにチェックしてください。

1.  自由価格    2.  企業出荷価格は自由価格だが、卸・薬局マージンは公定  
3.  国・公保険者による公定価格                      4.  その他 :具体的に\_\_\_\_\_

**CONTACT DETAILS FOR PERSON COMPLETING FORM**

Name	
Title	
Institution	
Country	
Email	

*Thank you for completing this!*

厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業  
「医薬品の使用ならびに価格に関する国際比較研究」  
総括研究「医薬品使用の国際比較」

主任研究者 財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 坂巻 弘之  
研究協力者 財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 今野 広紀  
研究協力者 財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 草開 義隆

要旨

日米英独仏5カ国の高血圧、高脂血症、糖尿病、消化性潰瘍、中耳炎の5疾患について医薬品使用量の比較を行うため、アイ・エム・エス・ジャパン株式会社（以下「IMS」）より協力を受け分析を行った。その結果、医薬品の処方せん割合は国によって違いが見られ、また1処方せんあたりの平均処方日数は、日本は諸外国に比べ著しく短いことが明らかとなった。その一方で、各国において発売されている医薬品の種類が異なっており、併用状況や1処方せんあたりの投与量(力価)を比較するためには個々の商品単位まで遡った分析が必要であった。

1. 研究背景と目的

医薬品使用のあり方についての議論においては、従来経済開発協力機構（Organisation for Economic Co-operation and Development; OECD）が毎年公表している The OECD Health Data におけるマクロ薬剤費や薬剤費比率が用いられている。OECD Health Data は、OECD 加盟国に対し、2000 年度以降、A System of Health Accounts(SHA)に準拠して推計値を提供することが求められ、わが国においても 1995 年度以降の推計値は SHA に基づいて推計値の報告を行っている。

しかしながら、医薬品支出額を国際比較するにあたっては、いくつかの留意すべき点が存在している。各国の制度の違いを背景として、OECD Health Data において「外来処方薬(the Expenditure on Prescription Medicine)」に含まれる医薬品種類は各国によって違いがあることが明らかになっているが、それ以外にも医薬品支出額を国際比較するためには、以下の事項についても考慮する必要がある。

- ・ 患者特性（罹患率、年齢構成等）等の違いによる使用量の違い
- ・ 発売されている医薬品の種類の違い。
- ・ 国による選択される医薬品の種類の違い、1 回に投与される処方量の違い。
- ・ 価格そのものの違い。

医薬品支出額の国際比較を行うに当たっては、こうした各国の差異を考慮する必要があるが、より精緻な分析に当たっては、総支出額の比較の前に、医薬品そのものの価格の比較と医薬品使用量の比較に分解して、国際比較を行うことが重要である。

ここで、医薬品使用量は以下のように処方件数、1 日当り処方量、処方期間の 3 つに分解して考えることができる。

医薬品支出額＝使用量×@価格

使用量＝処方件数×1 日当り処方量×処方期間

処方件数での分析は、各国の処方傾向の違いを把握することができ、1日当たり処方量ならびに1処方あたりの処方期間をみることで、処方に対する傾向の違いを明らかにすることができる。そこで、今回 IMS から協力を受け、IMS のデータを活用し、こうした各国間の処方の違いを検討したのでその結果を報告する。

## 2. 方法

分析に用いたデータは、IMS が保有するMIDASというデータベースを用いて検索された以下のデータである。

- (1) 対象国：日本、フランス、ドイツ、米国、英国
- (2) データ：IMS の MIDAS データのうちの処方件数、総処方日数
- (3) 年 度：2002 年から 2004 年度の移動一年（MAT:Moving Annual Total）の値  
ただし、2002 年度データは、2002 年 6 月以降のみのデータであることと、社会医療診療行為別調査の最新データが 2003 年度であることから、本報告書では 2003 年度データでの結果を示している。
- (4) 対象傷病と薬効：外来患者データについて、以下に示す病名ごとの集計データの提供を受けた。厚生省データでは ICD 分類が使用されていないため、厚生省分類（119 分類）にあわせた ICD 分類で出力した。
  - ① 高血圧における降圧剤などの使用状況
    - ・ I10-I15：高血圧性疾患
    - ・ I10：本態性（原発性<一次性>）高血圧（症）  
（参考：厚生労働省傷病符号・傷病名：901：高血圧性疾患）
  - ② 糖尿病における糖尿病治療薬の使用状況
    - ・ E10-E14：糖尿病
    - ・ E11：インスリン非依存性糖尿病<NIIDDM>  
（参考：厚生労働省傷病符号・傷病名：402：糖尿病）
  - ③ 消化性潰瘍における抗潰瘍薬の使用状況
    - ・ K25：胃潰瘍+K26：十二指腸潰瘍  
（参考：厚生労働省傷病符号・傷病名：1104：胃潰瘍及び十二指腸潰瘍）
  - ④ 血清脂質降下薬の使用状況  
高脂血症については、119 分類で対象となる病名分類がないため、すべての患者を対象としての集計ならびに以下の病名それぞれについて解析表の提供を受けた。
    - ・ すべての患者
    - ・ E78：リポたんぱく<蛋白>代謝障害およびその他の脂（質）血症
  - ⑤ 中耳炎における抗生物質・抗菌剤の使用状況  
外来患者で抗生物質・抗菌剤が使用される傷病として中耳炎を選択した。
    - ・ H65 非化膿性中耳炎+H66 化膿性および詳細不明の中耳炎合計、H66 化膿性および詳細不明の中耳炎のみ

その他、IMS データ使用上の留意点は以下のとおりである。

※ MIDASデータについて：MIDASとはMultinational Integrated Data Analysis Systemの略でIMSが保有するGlobal Databaseのことである。医師（日本は開業医（0－99床の医療施設）と病院（100床以上の医療施設）勤務医師）、その他の国は開業医(Office based physician)へのアンケート調査である。

今回MIDASを用いて検索した医療データは、拡大係数のかかった全国レベルの推計値であり、調査期間がまたがった場合には「同一医師」を区別していない。

※ 入院・外来の別：日本以外では医薬分業が基本であることと、入院医療での予算制、定額評価がなされていることから、入院患者データについてのデータは殆ど存在していない。従って、本データは、ほぼすべて外来患者と考えられる。

※ 先発・後発：製品レベルでは先発・後発を分けることも可能であるが、本データは処方せんデータであり、一般名処方なされた場合や、調剤薬局において代替調剤がなされた場合など、実際の後発品使用状況を把握することは困難である。

※ 平均投薬日数：延べ投与日数（述べ1万日分治療できるだけの量が処方された）を処方せん数で割り算をして平均処方日数を計算した。

※ ATCコード：IMS独自のATCコードが付与されており、WHO/ATCとは異なるものがある。また、提供を受けたデータをもとに、出力件数の少ないものを「その他」に分類し、各領域についてIMS/ATCコードを以下のように整理して集計を行った。なお、一般名の日本での発売名も参考に示した。

### 高血圧症

分類 (下位項目)	ATC	日本語名
① DIURETICS	C03	利尿剤
② BETA BLOCKING AGENTS	C07	β-遮断薬
③ CALCIUM ANTAGONISTS	C08	カルシウム拮抗剤
④ ACE INHIBITORS	C09A	ACE阻害剤
⑤ ANGIOTENSIN-2 ANTAG	C09C	アンジオテンシン2受容体拮抗剤
⑥ <u>ALL OTHER ANTIHYPERTENSIVES</u>		
ANTIHYPERTENSIVES	C02	降圧剤
CEREB. & PERIPHER. VASOTHERAP	C04	脳血管, 末梢血管拡張剤
ANTIVASCULAR & ANTIHAEMORR	C05	静脈瘤治療剤・痔疾治療剤
OTH CARDIOVASCULAR PRDS	C06	その他の循環器系用剤

### 糖尿病

分類 (下位項目)	ATC	日本語名
① SULPHONYLUREA A-DIAB	A10B1	スルフォニル尿素系製剤
② BIGUANIDE ANTIDIABETICS	A10B2	ビグアナイド系製剤
③ COMB SULPH+BIGUAN. A-DIAB	A10B3	スルフォニル尿素系とビグアナイド系の配合
④ <u>GLITAZONE ANTIDIABETICS</u>	A10B4	グリタゾン系製剤
GLITAZONE+OTH ORL A-DIAB	A10B8	グリタゾン系+他の経口糖尿病治療剤配合剤
⑤ ALPHA-GLUC. INHIB. A-DIAB	A10B5	α-グルコシダーゼ阻害剤
⑥ <u>INSULINS</u>		
H INSUL+ANA FAST ACT	A10C1	ヒトインスリン及び類似物質; 速効型
H INSUL+ANA INTERMED ACT	A10C2	ヒトインスリン及び類似物質; 中間型
H INSUL+ANA INT+FAST ACT	A10C3	ヒトインスリン及び類似物質; 速効+中間型
H INSUL+ANA INT+LONG ACT	A10C4	ヒトインスリン及び類似物質; 持続+中間型
H INSUL+ANA LONG ACT	A10C5	ヒトインスリン及び類似物質; 持続型
OTHER HUMAN INSULINS	A10C9	その他のヒトインスリン製剤
ANIMAL INSULINS	A10D0	動物インスリン製剤
⑥ <u>ALL OTHER ANTIDIABETICS</u>		
OTHER ORAL ANTIDIABETICS	A10B9	その他の経口糖尿病治療剤
OTHER DRUGS FOR DIABETES	A10X0	その他の糖尿病治療剤

### 高脂血症

分類 (下位項目)	ATC	日本語名
① STATINS (HMG-COA RED)	C10A1	スタチン製剤 (HMG-COA還元酵素阻害)
② FIBRATES	C10A2	フィブラート系製剤
③ <u>ALL OTHER ARTERIOSCLEROSIS</u>		
ION-EXCHANGE RESINS	C10A3	イオン交換樹脂製剤
OTH. CHOLEST&TRIGLY. REGUL	C10A9	他のコレステロール及トリグリセリド調整剤
ANTI-ATHEROMA NATRL ORIG	C10B0	天然起源の動脈硬化用剤

消化性潰瘍

分類 (下位項目)	ATC	日本語名
① H2 ANTAGONISTS	A02B1	H2受容体拮抗剤
② ACID PUMP INHIBITORS	A02B2	プロトンポンプ阻害剤
③ <u>ALL OTHER ANTIULCERANTS</u>	A02B9	その他の潰瘍治療剤
PROSTAGLANDIN ANTIULCERAN	A02B3	プロスタグランジン系潰瘍治療剤
BISMUTH ANTIULCERANTS	A02B4	ビスマス潰瘍治療剤

中耳炎

分類 (下位項目)	ATC	日本語名
① <u>PENICILLIN</u>		
BROAD-SPECTRUM PENICILLIN	J01C	広域抗菌スペクトルペニシリン製剤
MEDIUM-& NARROW-SPECTR. PC	J01H	中域及び狭域抗菌スペクトルペニシリン製剤
② CEPHALOSPORINS	J01D	セファロsporin系製剤
③ MACROLIDES & SIMILAR TYPE	J01F	マクロライド系製剤及びその類似製品
④ FLUOROQUINOLONES	J01G	フッ化キノロン製剤
⑤ <u>OTH B-LACTAM EX PEN, CEPH</u>	J01P	その他のβ-ラクタム系抗生物質
CARBENICILLIN & SIMILAR	J01L	カルベニシリン製剤及び類似製剤
⑥ <u>ALL OTHER ANTIBIOTICS</u>		
TETRACYCLINES & COMBS	J01A	テトラサイクリン製剤及びその配合剤
CHLORAMPHENICOLS & COMBS	J01B	クロラムフェニコール製剤及びその配合剤
TRIMETHOPRIM & SIMILAR	J01E	トリメトプリム製剤及びその類似製品
AMINOGLYCOSIDES	J01K	アミノ配糖体製剤
RIFAMPICIN & RIFAMYCIN	J01M	リファンピシン/リファマイシン製剤
OTHER ANTIBIOTICS	J01X	その他の全身性抗生物質

参考：主要国内発売医薬品

成分名(英語)	成分名(日本語)	主要商品名	薬効分類
【高血圧症】	【高血圧症】		
VERAPAMIL	ベラパミル	ワソラン	Ca拮抗薬
AMLODIPINE	アムロジピン	ムバスク、アムロジン	Ca拮抗薬(シトロピリジン系)
FELODIPINE	フェロジピン	ムバール、スプレンジール	Ca拮抗薬(シトロピリジン系)
NICARDIPINE	ニカルジピン	ベルジピン、ニコデル	Ca拮抗薬(シトロピリジン系)
NIFEDIPINE	ニフェジピン	アダラート、ヘルラート、セバミット	Ca拮抗薬(シトロピリジン系)
NISOLDIPINE	ニソルジピン	ハイミカード	Ca拮抗薬(シトロピリジン系)
DILTIAZEM	ジルチアゼム	ヘルベッサー	Ca拮抗薬(ベンゾチアゼピン系)
SPIRONOLACTONE	スピロノラクトン	アルダクトンA	K保持性利尿薬
TRIAMTERENE	トリアムテレン	トリテレン	K保持性利尿薬
LABELTALOL	ラベタロール	トランテート	αβ遮断薬
DOXAZOSIN	ドキシazosin	カルテナリン	α遮断薬
PRAZOSIN	プラゾシン	ミニプレス	α遮断薬
TERAZOSIN	テラゾシン	ハイトラシン、パソメット	α遮断薬
OXPRENOLOL	オクスプレノロール	トラサコール	β遮断薬
ACEBUTOLOL	アセブトロール	アセタール、セクラー	β遮断薬[β1選択性・ISA(+)]
CELIPROLOL	セリプロロール	セレクール	β遮断薬[β1選択性・ISA(+)]
NADOLOL	ナドロール	ナディック	β遮断薬[β1非選択性・ISA(-)]
PROPRANOLOL	プロプラノロール	インテラル	β遮断薬[β1非選択性・ISA(-)]
PINDOLOL	ピントロール	カルピスケン、プロクリンL	β遮断薬[β1非選択性・ISA(+)]
ATENOLOL	アテノロール	テノーミン	β遮断薬[β1選択性・ISA(-)]
BETAXOLOL	ベタキソロール	ケルロング	β遮断薬[β1選択性・ISA(-)]
BISOPROLOL	ビソプロロール	メインテート	β遮断薬[β1選択性・ISA(-)]
METOPROLOL	メトプロロール	ロフレソール、セロケン	β遮断薬[β1選択性・ISA(-)]
CANDESARTAN CILEXETIL	カンデサルタンシレキセチル	プロプレス	アンジオテンシンII受容体(AII)拮抗薬
LOSARTAN	ロサルタン	ニューロタン	アンジオテンシンII受容体(AII)拮抗薬
TELMISARTAN	テルミサルタン	ミカルテイス	アンジオテンシンII受容体(AII)拮抗薬
VALSARTAN	バルサルタン	ディオバン	アンジオテンシンII受容体(AII)拮抗薬
BENAZEPRIL	ベナゼプリル	チバセ	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
CAPTOPRIL	カプトプリル	カプトリル	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
CILAZAPRIL	シラザプリル	インヒベース	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
ENALAPRIL	エナラプリル	レニベース	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
IMIDAPRIL	イミダプリル	タナトリル、ナロック	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
LISINAPRIL	リシンアプリル	ロングス、セスリル	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
PERINDOPRIL	ペリンドプリル	コバシル	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
QUINAPRIL	キナプリル	コナン	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
TRANDOLAPRIL	トランドラプリル	オトリック、ブレラン	アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
HYDRALAZINE	ヒドララジン	アプレゾリン	血管拡張性降圧薬
HYDROCHLOROTHIAZIDE	ヒドロクロチアジド	ダイクモラト	サイアザイド系利尿薬
CHLORTALIDONE	クロルタリドン	ハイグロン	サイアザイド系類似利尿薬
INDAPAMIDE	インダパミド	チリックス、テナキシル	サイアザイド系類似利尿薬
CLONIDINE	クロニジン	カタプレス	中枢性交感神経抑制薬
METHYLDOPA	メチルドパ	アルドメット	中枢性交感神経抑制薬
RESERPINE	レセルピン	アホプロン	末梢性交感神経抑制薬
BUMETANIDE	ブメタニド	ルネトロン	ループ利尿薬
FUROSEMIDE	フロセミド	ラシックス、オインジン	ループ利尿薬
TORASEMIDE	トラセミド	ルブラック	ループ利尿薬
OLMESARTAN MEDOXOMIL			
COMPOSITION UNKNOWN			
AMILORIDE			
BENDROFLUMETHIAZIDE			
EPROSARTAN			
FOSINOPRIL			
IRBESARTAN			
ISRADIPINE			
MINOXIDIL			
MOEXIPRIL			
PENTOXIFYLLINE			
RAMIPRIL			
SOTALOL			
TIMOLOL			



成分名(英語)	成分名(日本語)	主要商品名	薬効分類
<b>【糖尿病】</b>	<b>【糖尿病】</b>		
ACARBOSE	アカルボース	グルコハイ	αグルコシダーゼ阻害薬
PIOGLITAZONE	ピオグリタゾン	アトス	インスリン抵抗性改善薬
TOLBUTAMIDE	トルブタミド	ヘキストラスチン、シアベン	スルホニル尿素(SU)薬(第一世代)
GLIMEPIRIDE	グリメピリド	アマール	スルホニル尿素(SU)薬(第三世代)
GLIBENCLAMIDE	グリベンクラミド	オイグルコン、ダオニール	スルホニル尿素(SU)薬(第二世代)
GLICLAZIDE	グリクラジド	グリミカロン	スルホニル尿素(SU)薬(第二世代)
METFORMIN	メホルミン	グリコラン、メルピン	ビグアナイド(BG)薬
NATEGLINIDE	ナテグリニド	ファステック、スターシス	フェニルアラニン誘導体
REPAGLINIDE			
ROSIGLITAZONE			
INSULIN ASPART	インスリンアスパルト	ノボラピット	インスリン(超速攻型)
INSULIN LISPRO	インスリンリスプロ	ヒューマログ	インスリン(超速攻型)
INSULIN GLARGINE			
INSULIN HUMAN BASE			
INSULIN HUMAN ISOPHANE			
INSULIN HUMAN ZINC SUSPENSION (COMPOUND)			
INSULIN HUMAN ZINC SUSPENSION (CRYSTALLINE)			
INSULIN LISPRO PROTAMINE			
INSULIN PORCINE BASE			
INSULIN PORCINE ISOPHANE			

成分名(英語)	成分名(日本語)	主要商品名	薬効分類
<b>【高脂血症】</b>	<b>【高脂血症】</b>		
ATORVASTATIN	アトルバスタチン	リトール	スタチン(HMG-CoA 還元酵素阻害薬)
FLUVASTATIN	フルバスタチン	ローコール	スタチン(HMG-CoA 還元酵素阻害薬)
PRAVASTATIN	プラバスタチン	メバロチン	スタチン(HMG-CoA 還元酵素阻害薬)
SIMVASTATIN	シンバスタチン	リボバス	スタチン(HMG-CoA 還元酵素阻害薬)
BEZAFIBRATE	ベザフィブラート	ベザトール SR、ベザリッパ	フィブラート系薬
FENOFIBRATE	フェノフィブラート	リバンチル	フィブラート系薬
EICOSAPENTAENOIC ACID	エイコサペンタエン酸	(Eパテール、イコサント酸エチル)	
COLESTYRAMINE			
DOCOSAHEXANOIC ACID			
GEMFIBROZIL			
<b>【消化性潰瘍】</b>	<b>【消化性潰瘍】</b>		
AMOXICILLIN	アモキシシリン	アモリン、サワシリン、パセトシリン	広範囲β-ニシリン系薬
CIMETIDINE	シメチジン	タガメット	ヒスタミン H2 受容体拮抗薬
FAMOTIDINE	ファモチジン	ガスター	ヒスタミン H2 受容体拮抗薬
NIZATIDINE	ニザチジン	アシノン	ヒスタミン H2 受容体拮抗薬
RANITIDINE	ラニチジン	ザンタック	ヒスタミン H2 受容体拮抗薬
ENPROSTIL	エンプロスタール	カムリード	プロスタグランジン製剤
MISOPROSTOL	ミソプロストール	サイトテック	プロスタグランジン製剤
ORNOPROSTIL	オルノプロスタール	ロノック、アロカ	プロスタグランジン製剤
LANSOPRAZOLE	ランソプラゾール	タケプロン	プロトンポンプ阻害薬
OMEPRAZOLE	オメプラゾール	オメプラール、オメプラゾン	プロトンポンプ阻害薬
RABEPRAZOLE	ラベプラゾール	パリエット	プロトンポンプ阻害薬
SUCRALFATE	スクラルファート	アルサルミン	防御因子増強薬
CLARITHROMYCIN	クラリスロマイシン	クラリット、クラリス	マクロライド系薬
ESOMEPRAZOLE			
PANTOPRAZOLE			

成分名(英語)	成分名(日本語)	主要商品名	薬効分類
<b>【中耳炎】</b>	<b>【中耳炎】</b>		
CLAVULANIC ACID	(アモキシシリン-クラヴァン酸 K=2:1)	(オーグメンチン)	β-ラクタマーゼ阻害薬配合剤
CEFACLOL	セファクロル	ケフラー	経口セフェム系薬
CEFADROXIL	セフトロキシル	サマセフ	経口セフェム系薬
CEFALEXIN	セファレキシン	ケフレックス、センセファリン	経口セフェム系薬
CEFIXIME	セフィキシム	セフスハン	経口セフェム系薬
CEFPODOXIME PROXETIL	セフトホドキシムプロキセチル	パナン	経口セフェム系薬
CEFUROXIME AXETIL	セフトロキシムアキセチル	オラセル	経口セフェム系薬
AMOXICILLIN	アモキシシリン	アモリン、サワシリン、パセトシン	広範囲ペニシリン系薬
AMPICILLIN	アンピシリン	ソルシリン、ピクシリン、アミベニックス	広範囲ペニシリン系薬
CEFTRIAXONE	セフトリアキソン	ロセフィン	注射用第三世代セフェム系薬
DOXYCYCLINE	ドキシサイクリン	ビブラマイシン	テトラサイクリン系薬
CIPROFLOXACIN	シプロフロキサシン	シプロキサ	ニューキノロン系薬
LEVOFLOXACIN	レボフロキサシン	クラビット	ニューキノロン系薬
OFLOXACIN	オフロキサシン	タリビット	ニューキノロン系薬
AZITHROMYCIN	アジスロマイシン	ジスロマック	マクロライド系薬
CLARITHROMYCIN	クラリスロマイシン	クラリッド、クラリス	マクロライド系薬
ERYTHROMYCIN	エリスロマイシン	エリスロシン、エリスロマイシン	マクロライド系薬
SULFAMETHOXAZOLE	(スルファメキサゾール-トリメトプリム=5:1)	バクタ、バクタミン	配合剤
TRIMETHOPRIM	(スルファメキサゾール-トリメトプリム=5:1)	バクタ、バクタミン	配合剤
TELITHROMYCIN			

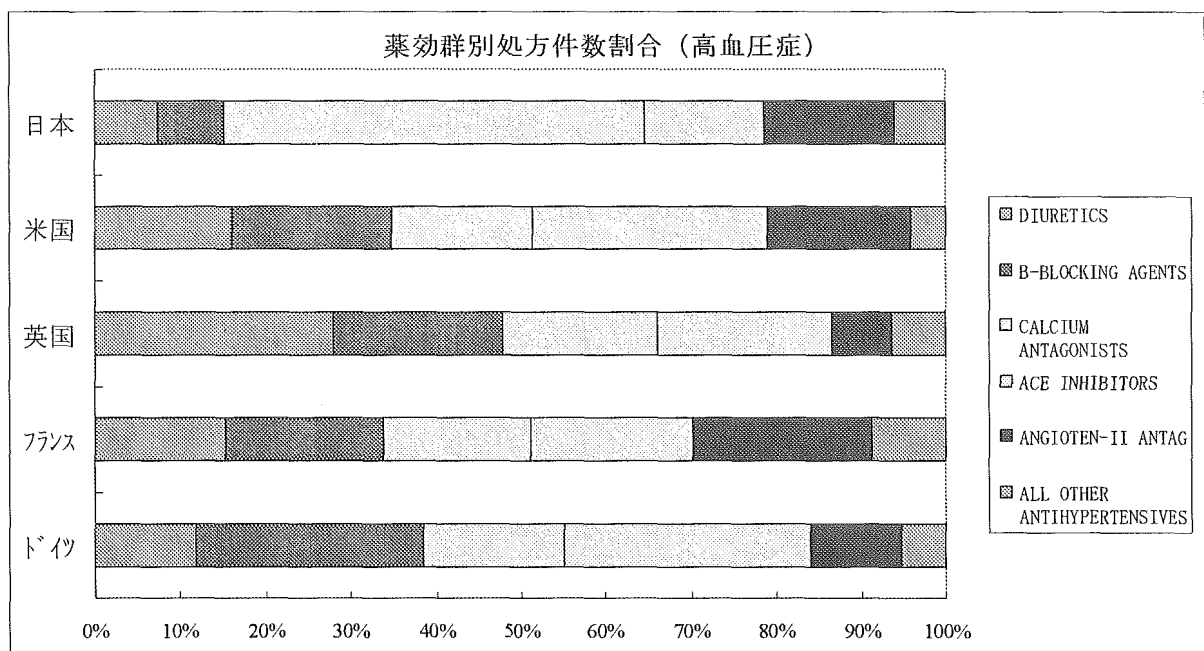
### 3. 結果

#### (1) 処方せん枚数における薬効別シェアの比較

##### ① 降圧剤

日本は他国に比べ Ca 拮抗剤の処方割合が高く、英国では利尿剤の割合が高かった。

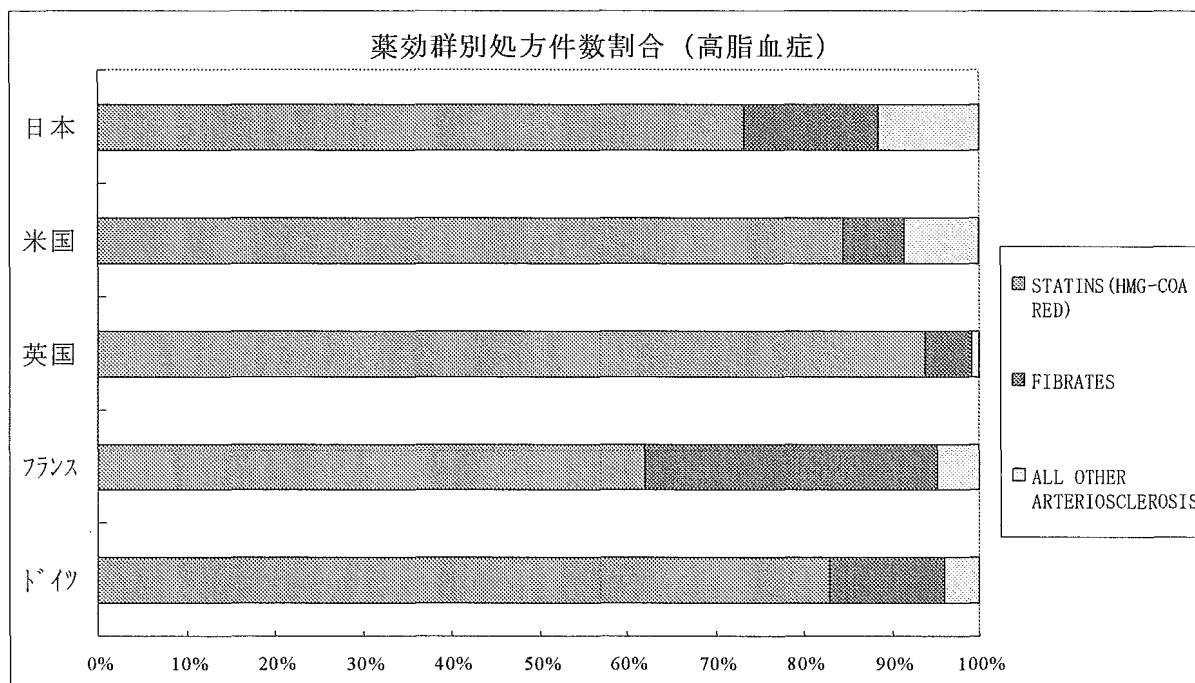
	2003年 処方件数 (単位:千枚)									
	日本		米国		英国		フランス		ドイツ	
	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%
DIURETICS	19,566	7.3%	20,379	16.1%	20,634	27.9%	8,739	15.4%	11,137	11.8%
B-BLOCKING AGENTS	20,971	7.8%	23,659	18.7%	14,736	20.0%	10,448	18.4%	25,074	26.7%
CALCIUM ANTAGONISTS	131,913	49.4%	21,046	16.6%	13,517	18.3%	9,834	17.3%	15,532	16.5%
ACE INHIBITORS	37,739	14.1%	34,900	27.5%	14,975	20.3%	10,841	19.1%	27,339	29.1%
ANGIOTEN-II ANTAG	40,759	15.2%	21,556	17.0%	5,279	7.2%	11,927	21.0%	9,963	10.6%
ALL OTHER ANTIHYPERTENSIVES	16,332	6.1%	5,163	4.1%	4,690	6.4%	4,934	8.7%	5,026	5.3%
TOTAL	267,280	100.0%	126,703	100.0%	73,832	100.0%	56,723	100.0%	94,072	100.0%



② 高脂血症治療薬

フランスにおいてフィブラート系高脂血症治療薬の割合が高かった。

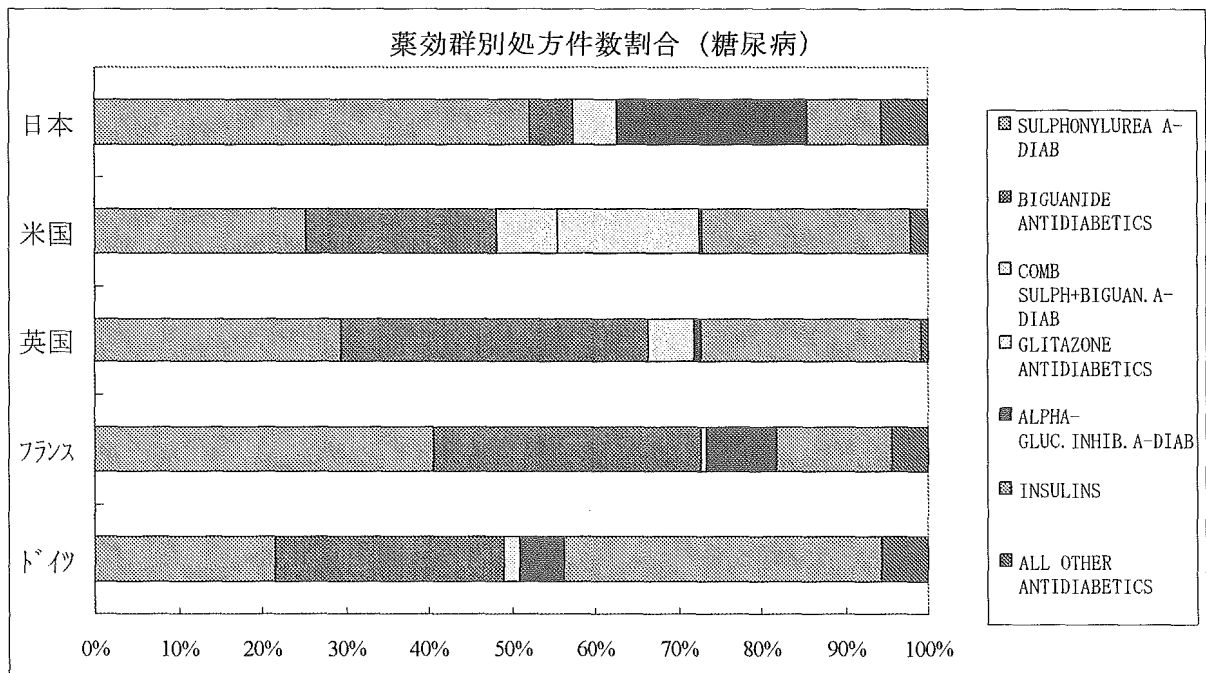
	2003年 処方件数 (単位:千枚)									
	日本		米国		英国		フランス		ドイツ	
	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%
STATINS (HMG-COA RED)	60,710	73.3%	36,650	84.5%	7,664	93.8%	12,655	62.0%	10,765	83.0%
FIBRATES	12,652	15.3%	3,036	7.0%	438	5.4%	6,777	33.2%	1,689	13.0%
ALL OTHER ARTERIOSCLEROSIS	9,456	11.4%	3,681	8.5%	68	0.8%	985	4.8%	510	3.9%
TOTAL	82,817	100.0%	43,366	100.0%	8,171	100.0%	20,416	100.0%	12,963	100.0%



### ③糖尿病治療薬

インスリンの処方割合はドイツが高く、日本は低かった。また、日本はSU剤、 $\alpha$ グルコシダーゼ阻害薬の使用割合が他国に比べ高かった。米国でグリタゾンの処方割合が高かった。また米国ではSU剤+ビグアナイド合剤を処方する割合が他国に比べ高かった。

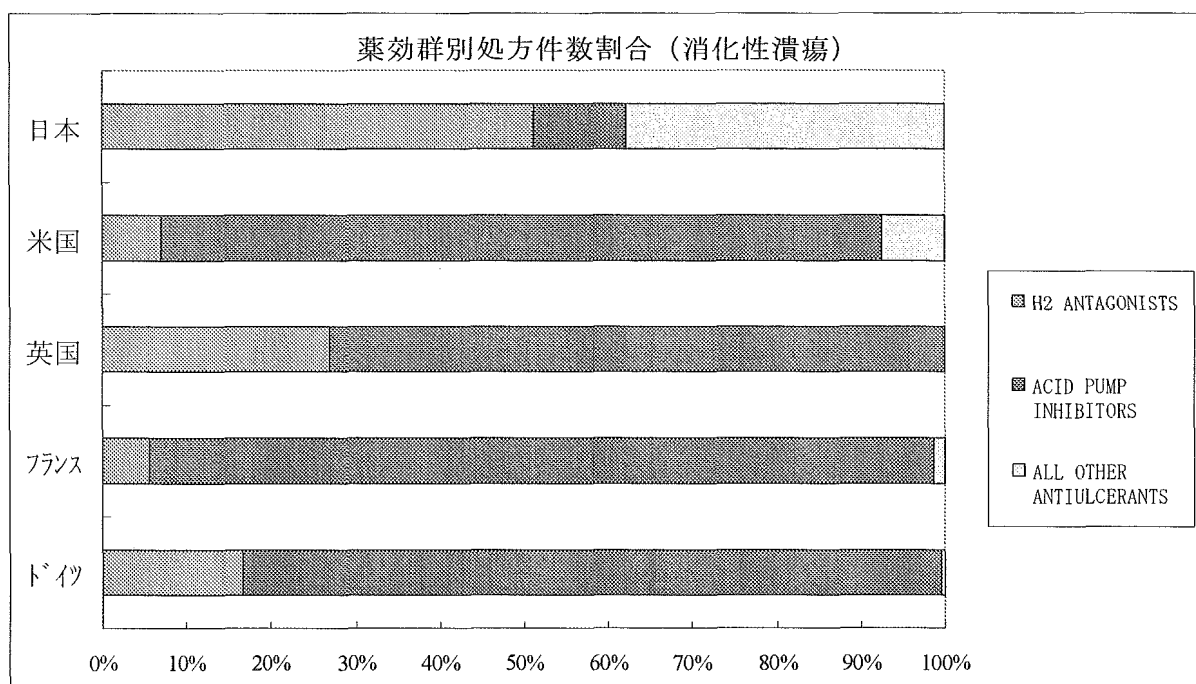
	2003年 処方件数 (単位:千枚)									
	日本		米国		英国		フランス		ドイツ	
	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%
SULPHONYLUREA A-DIAB	27,777	52.1%	12,474	25.3%	4,724	29.5%	5,457	40.5%	6,017	21.7%
BIGUANIDE ANTIDIABETICS	2,789	5.2%	11,265	22.9%	5,929	37.0%	4,342	32.2%	7,585	27.3%
COMB SULPH+BIGUAN. A-DIAB	-	0.0%	3,524	7.2%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
GLITAZONE ANTIDIABETICS	2,907	5.5%	8,460	17.2%	882	5.5%	91	0.7%	509	1.8%
ALPHA-GLUC. INHIB. A-DIAB	12,140	22.8%	170	0.3%	145	0.9%	1,123	8.3%	1,497	5.4%
INSULINS	4,752	8.9%	12,251	24.9%	4,203	26.2%	1,870	13.9%	10,624	38.3%
ALL OTHER ANTIDIABETICS	2,964	5.6%	1,065	2.2%	143	0.9%	585	4.3%	1,517	5.5%
TOTAL	53,329	100.0%	49,209	100.0%	16,026	100.0%	13,467	100.0%	27,748	100.0%



④ 消化性潰瘍治療薬

日本は H2 受容体拮抗剤とその他の消化性潰瘍治療薬の処方割合が他国に比べ著しく高かった。その他の消化性潰瘍治療薬には主に「防御因子系抗潰瘍薬」が含まれ、日本における潰瘍治療の特徴が見られた。

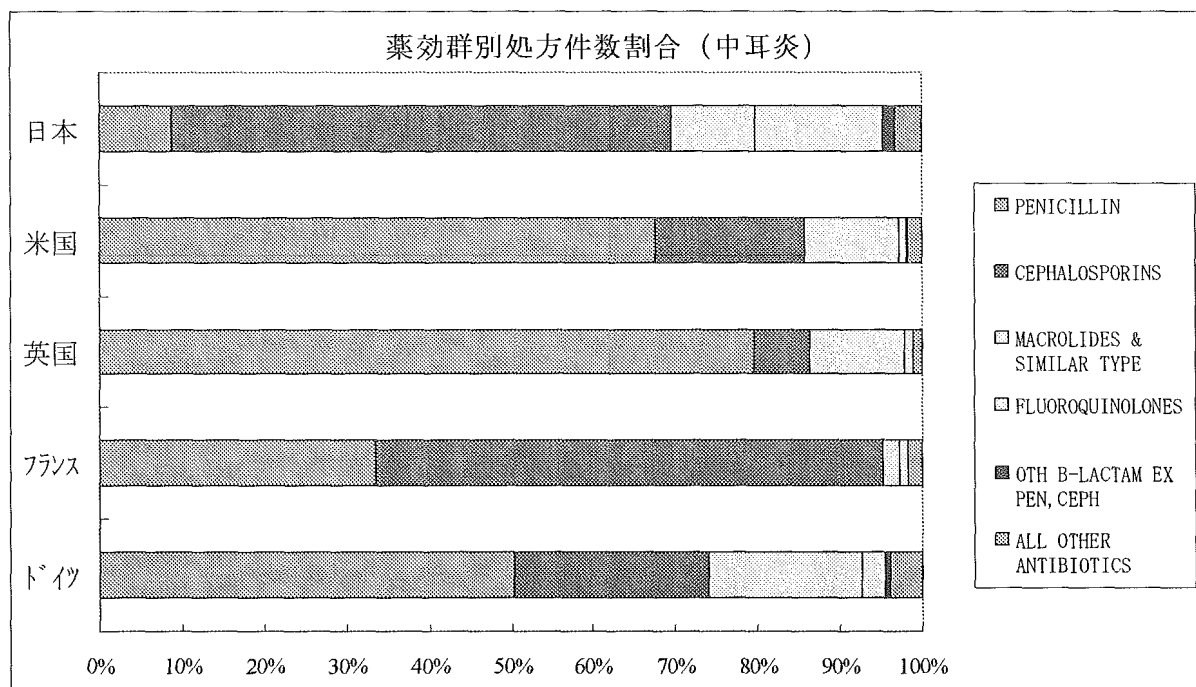
	2003年 処方件数 (単位:千枚)									
	日本		米国		英国		フランス		ドイツ	
	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%
H2 ANTAGONISTS	18,922	51.2%	36	7.0%	327	27.0%	30	5.6%	210	16.7%
ACID PUMP INHIBITORS	4,043	10.9%	433	85.4%	880	72.9%	502	93.1%	1,042	82.9%
ALL OTHER ANTIULCERANTS	13,974	37.8%	38	7.5%	1	0.1%	7	1.3%	5	0.4%
TOTAL	36,938	100.0%	507	100.0%	1,209	100.0%	539	100.0%	1,258	100.0%



⑤ 中耳炎における抗生物質・抗菌剤

日本、フランスはセファロスポリン系抗生物質の処方割合が高く、さらに、日本はキノロン系合成抗菌剤の処方割合も高かった。

	2003年 処方件数 (単位:千枚)									
	日本		米国		英国		フランス		ドイツ	
	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%	処方件数	%
PENICILLIN	291	8.8%	16,549	67.5%	390	79.5%	1,073	33.5%	1,029	50.2%
CEPHALOSPORINS	2,014	60.7%	4,483	18.3%	34	6.9%	1,981	61.8%	486	23.7%
MACROLIDES & SIMILAR TYPE	340	10.3%	2,775	11.3%	56	11.4%	58	1.8%	385	18.8%
FLUOROQUINOLONES	519	15.7%	231	0.9%	5	1.1%	34	1.1%	55	2.7%
OTH B-LACTAM EX PEN, CEPH	44	1.3%	66	0.3%	-	0.0%	-	0.0%	16	0.8%
ALL OTHER ANTIBIOTICS	108	3.3%	406	1.7%	5	1.1%	57	1.8%	77	3.8%
TOTAL	3,317	100.0%	24,510	100.0%	490	100.0%	3,204	100.0%	2,049	100.0%

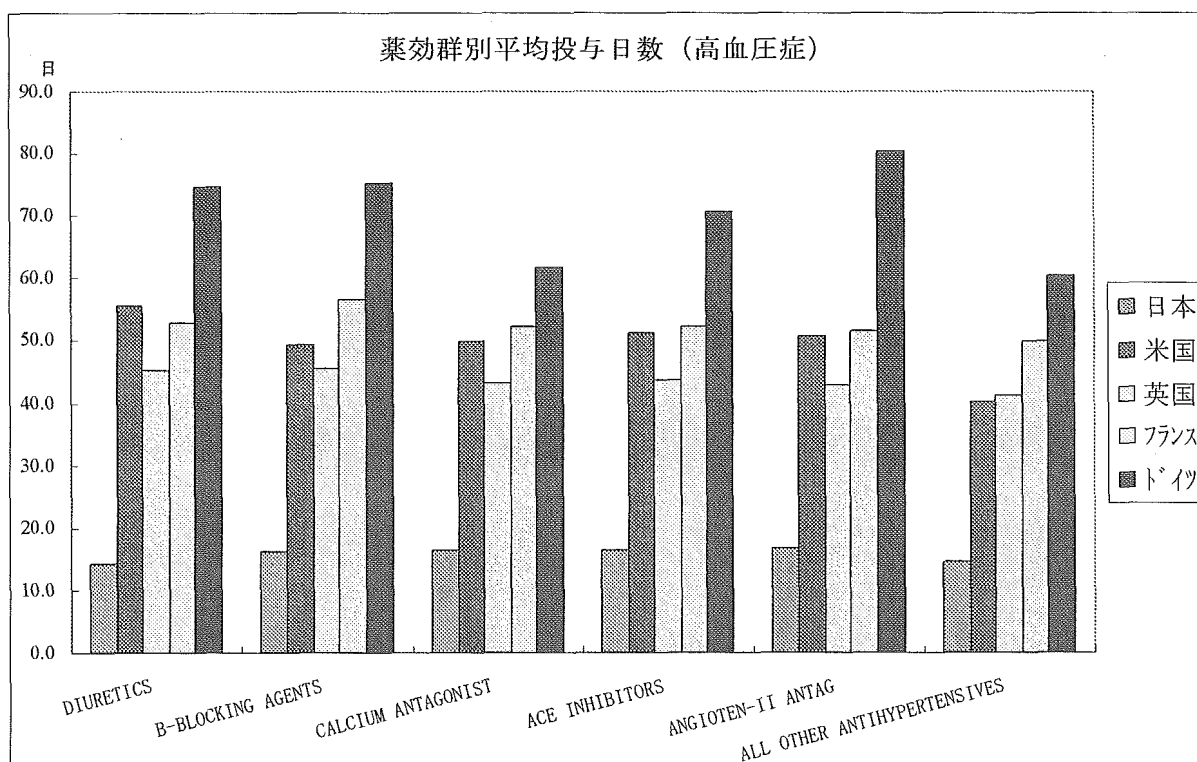


(2) 1 処方せんあたりの処方日数

① 降圧剤

日本は、他国に比べ 1 処方せんあたりの処方日数が著しく短かった。薬効間での差は特に見られなかった。

	2003年 処方日数/1処方 (単位：日)				
	日本	米国	英国	フランス	ドイツ
DIURETICS	14.3	55.5	45.2	52.8	74.8
B-BLOCKING AGENTS	16.3	49.4	45.6	56.7	75.1
CALCIUM ANTAGONIST	16.4	49.8	43.2	52.2	61.7
ACE INHIBITORS	16.3	51.2	43.8	52.4	70.5
ANGIOTEN-II ANTAG	16.7	50.7	42.8	51.6	80.3
ALL OTHER ANTIHYPERTENSIVES	14.5	40.1	41.3	49.8	60.4
TOTAL	16.2	50.8	44.2	52.8	71.3

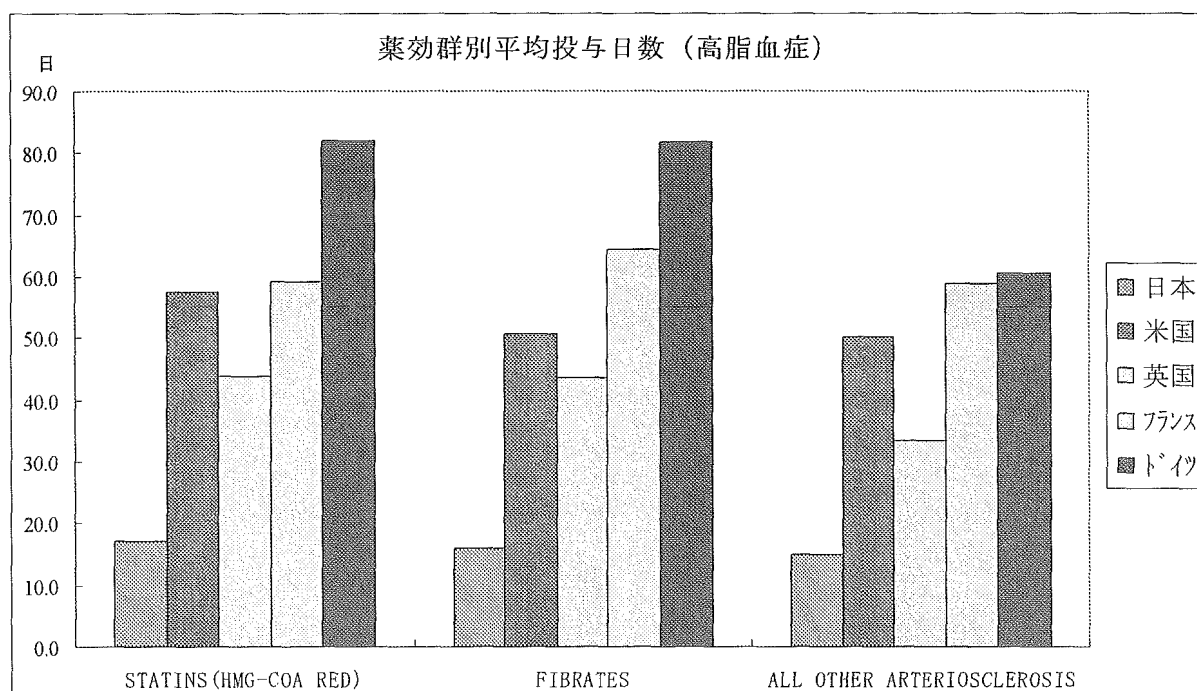




② 高脂血症治療薬

日本は、他国に比べ1処方せんあたりの処方日数が著しく短かった。薬効間での差は特に見られなかった。

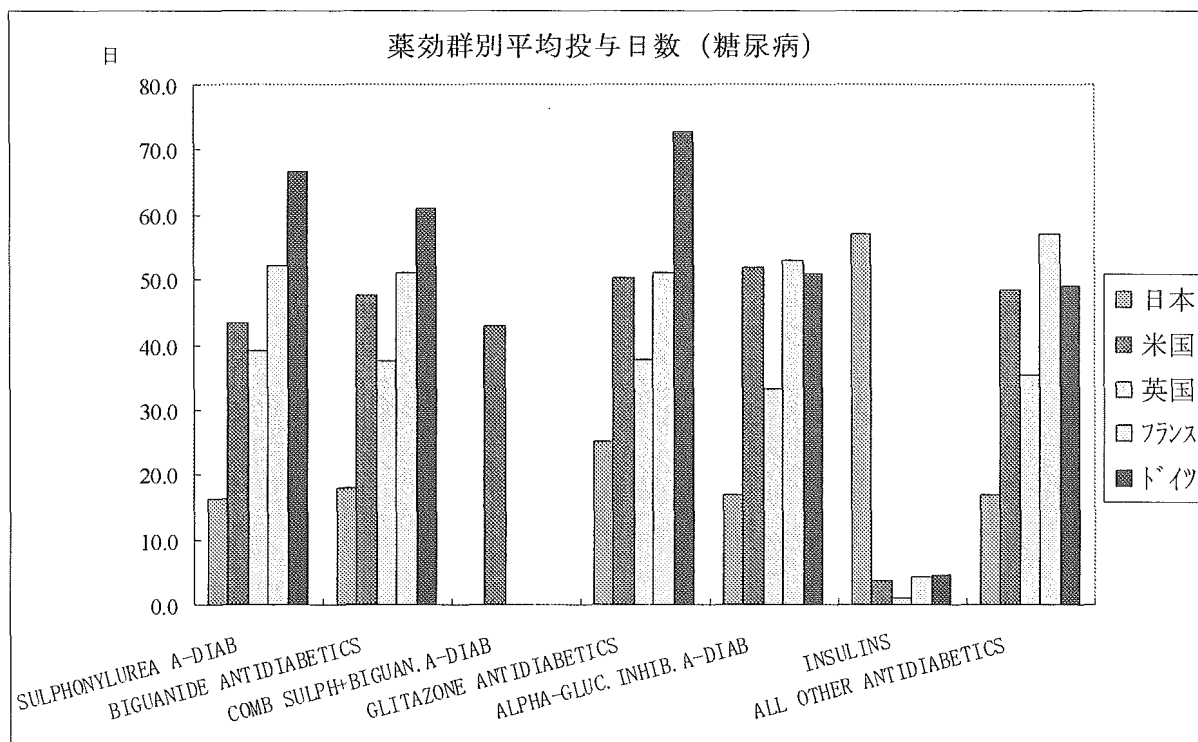
	2003年 処方日数/1処方 (単位:日)				
	日本	米国	英国	フランス	ドイツ
STATINS (HMG-COA RED)	17.0	57.6	43.7	59.1	81.9
FIBRATES	15.9	50.7	43.6	64.3	81.7
ALL OTHER ARTERIOSCLEROSIS	14.8	50.1	33.2	59.0	60.5
TOTAL	16.6	56.5	43.6	60.9	81.1



### ③ 糖尿病治療薬

日本は、他国に比べ1処方せんあたりの処方日数が短いものが多いが、薬効間でみると、インスリンでは、逆に日本が他国に比べ著しく長い傾向であった。ただし、インスリンについては、バイアルあるいはカートリッジで処方されるため、他の経口薬と異なる集計となっている可能性もあることに注意する必要がある。

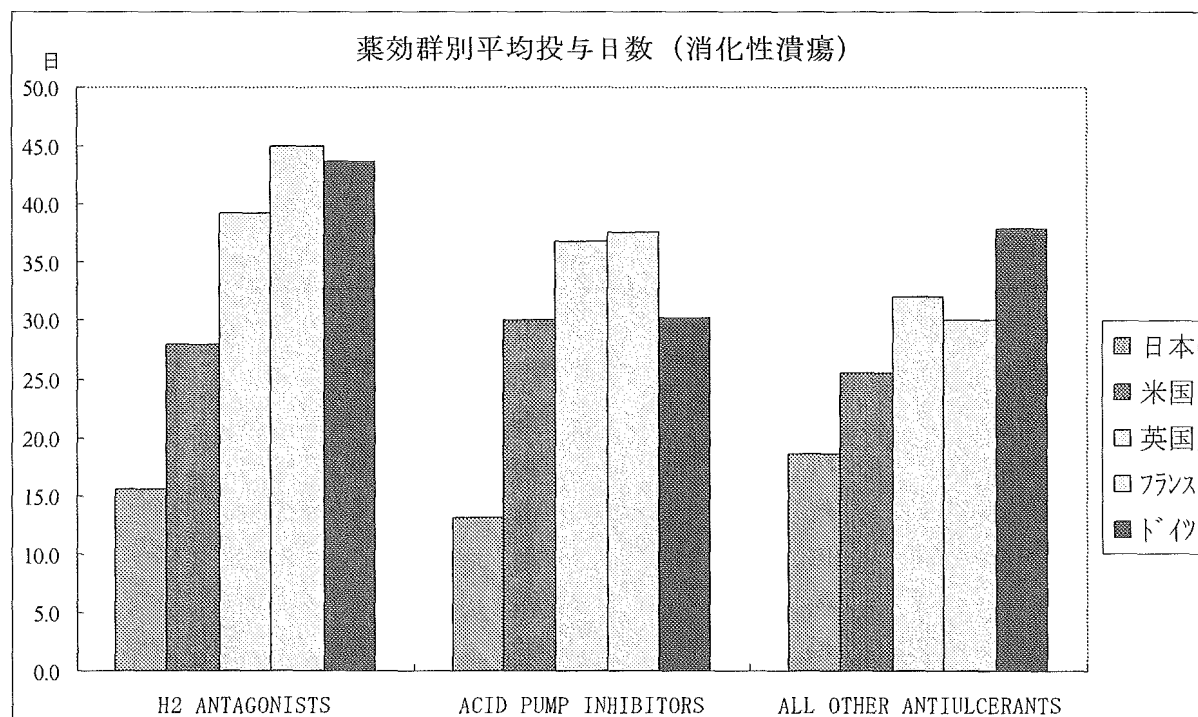
	2003年 処方日数/1処方 (単位：日)				
	日本	米国	英国	フランス	ドイツ
SULPHONYLUREA A-DIAB	16.3	43.4	38.9	52.1	66.6
BIGUANIDE ANTIDIABETICS	17.9	47.5	37.5	51.0	60.9
COMB SULPH+BIGUAN. A-DIAB	-	42.9	-	-	-
GLITAZONE ANTIDIABETICS	25.1	50.2	37.8	51.2	72.8
ALPHA-GLUC. INHIB. A-DIAB	16.9	51.8	33.2	52.9	50.7
INSULINS	57.1	3.7	1.2	4.2	4.7
ALL OTHER ANTIDIABETICS	16.8	48.4	35.4	57.0	48.9
TOTAL	20.7	35.7	28.3	45.4	39.6



④ 消化性潰瘍治療薬

日本は、他国に比べ 1 処方せんあたりの処方日数が著しく短かった。薬効間でみると、H2 受容体拮抗剤に比べプロトンポンプ阻害剤での処方日数が日本以外の国では短くなる傾向が見られた。

	2003年 処方日数/1処方 (単位：日)				
	日本	米国	英国	フランス	ドイツ
H2 ANTAGONISTS	15.6	27.9	39.3	44.9	43.7
ACID PUMP INHIBITORS	13.1	30.0	36.8	37.6	30.3
ALL OTHER ANTIULCERANTS	18.5	25.6	32.0	30.0	37.9
TOTAL	16.4	29.5	37.5	37.9	32.5



⑤中耳炎における抗生物質・抗菌剤

抗生物質・抗菌剤についてみると、他傷病と異なり、日本が他国に比べ処方日数が短いわけではなかった。特に、ペニシリン系抗生物質については、日本と米国は他国に比べ処方日数が長かった。マクロライド系抗生物質や日本での処方割合が高かったキノロン系合成抗菌剤では処方日数が短い傾向であった。ただし、抗生物質・抗菌剤の中には、外用の点耳剤も含まれていると考えられ、他の経口薬と異なる集計となっている可能性もあることに注意する必要がある。

	2003年 処方日数/1処方 (単位：日)				
	日本	米国	英国	フランス	ドイツ
PENICILLIN	14.1	15.2	6.7	7.8	7.0
CEPHALOSPORINS	8.9	8.9	8.2	12.3	6.5
MACROLIDES & SIMILAR TYPE	4.9	8.1	8.2	8.5	7.0
FLUOROQUINOLONES	4.3	9.0	6.1	9.9	5.9
OTH B-LACTAM EX PEN, CEPH	13.4	10.5	-	-	7.9
ALL OTHER ANTIBIOTICS	7.6	9.8	9.5	8.0	7.2
TOTAL	8.2	13.0	7.0	10.6	6.9

